

第4回奥出雲町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事要旨

1. 開会

・会社の人事異動により、審議会委員に1名異動があったので報告する。

2. 会長あいさつ

3. 議事

(1) 奥出雲町人口ビジョン（案）について

（事務局より資料1について説明。）

（会 長） 将来人口の推計は段階をおって少しずつ回復する事を見越し推計の値を変えたが、トータルで2040年1万人の目標は変更しない。また、内容に変更はないが、図の表現等、委員からいただいた指摘事項もほぼ修正がなされたということが事務局より説明された。

（委 員） やむを得ないのだろうが、人口ビジョンは積極的、前向きな目標を立てておられると感じた。これで良いのではないかと思う。

（会 長） トータルで今後に関わる人口の見通しや、定住、結婚、特に男性の動きについて話題になった。そういった辺りもご意見があればいただきたい。●●町はもっともっと前向きで、合計特殊出生率2.4くらいに上げる計画。その他市町と比較しても奥出雲町は辛めに設定されておられると思う。どちらが良いというわけではない。地域の実態に合ったやり方があるのではないか。人口については目標でありKPIとは性質が違い、2040年までの奥出雲町のサイズをイメージするものだと理解している。

（事務局） 37ページの社会増減の表現が分かりづらいだろうか？38ページを見れば分かっていたらと思うが。

（会 長） よく読めば分かる。これを町民に広報するわけではないので良いのではないか。委員の皆さんには目標数値の妥当性についてご議論いただけると良い。

人口ビジョンについては2回目の審議会以降、「2040年に概ね1万人」ということでできているので、以後、大きな変更はないと思う。今後は、微修正があれば、それは会長に一任していただいて良いか。

（委員一同） 良い。

(2) 奥出雲町総合戦略(案)について

<事務局より資料2について説明。>

(会 長) 1～9 ページ、10～39 ページ、40～41 ページと3つに分けてご議論いただきたい。全体の構成等を含めて、ご意見・ご質問等があればお願いしたい。事前送付の時点で委員の皆さんからご指摘いただいた部分については修正済みである。

(委 員) 議員からの意見で、限られた財源と人材の中で全て進行していけるか、優先順位を明確にすべきでないかという意見があるが、これに対する対応が、実施につきましては国・県の予算の動向を注視しつつ奥出雲らしさや費用対効果が高いものから優先して実施します、とあるが、役場内で優先順位を決めてしまうのか？それはおかしいのではないか。何をどういう順番でやるかというのが戦略であり、その戦略を選挙で選ばれていない役場内の人間が決めるのは問題であって、きちんと選挙で町民から選ばれた町議会議員と町長が議会で決定すべきだと思う。そこで決定したものは覆してならない。もし変えなければならない場合はまた議会を通す必要があると思う。こういうプロセスをきちんと経るかどうかをお聞きしたい。

(事務局) 町長や議員によって議論がされるべきというご意見だが、それはごもっともであり、そのように考えている。優先順位を決めるにあたって、町長が政策を判断する。これに基づき予算を編成して議会に諮る。プロセスとしては当然議会を通す。役場職員は決まったことを執行する立場であると理解している。

(委 員) 医療・福祉に関する記述が少なすぎるのではないか。

30 ページの「取り組みの方向性」の地域産業の競争力強化にヘルスケア産業の進行とあるが、それ以外は見当たらないのではないか。

(事務局) 当初からご説明しているが、総合戦略は人口減少に歯止めをかけるという視点を重視している。したがって、医療福祉は「長寿」という意味で人口減少対策に寄与するかもしれないが、光は当たりにくくなっている。医療・福祉に関しては、18 ページ出産・子育て支援のところでも触れている。また、総合戦略に限らず、町の施策全体としては大事なところだと考えている。

(委 員) まちの活性化という面で、専修学校は若者を一時的にでも定住させる狙いがあったように思う。学校としての何等かの役割を果たさないといけないだろうという話になっている。地域性もあって高齢者が非常に多い。そういうものを見据えた、健康増進や健康管理事業をゆくゆくは立ち上げていこうという話をしている。実際、それで雇用が生まれるという考えでいる。それに向けて産学連携で実行しようということで進めている。実際に雇用が生まれるということを上げたい。

- (会 長) これまで審議会や庁内推進会議で積み上げてきているので、今から新たに項目を立てるといふところまで盛り込むといふのはなかなか難しいのではないだろうか。枠組み自体は 2 回目あたりでおおよそこういう方向で、という議論をしている。おっしゃることはおおいに賛同するが、入れ込む余地があるか。
- (委 員) くくりの話ではなく、もう少し取り入れてもいいのではないかと。高齢者の健康維持だけの話ではなくて、雇用を生み出すという話である。
- (事務局) 雇用が増えるという面では、取組みを進めていってもらいたい。ヘルスケア産業の進行の部分の具体的事項として、今後連携し、必要な支援をさせていただきたい。
- (委 員) KPI の達成年度が H29 年度だったり H31 年度だったりしているのはなぜか。5 年後を目標としているため、H31 年度で示されるべきではないかと思う。
- (事務局) 数字が出てくるのに時間がかかる統計もあるため、一律 31 年度の数字を把握できなにご理解いただければと思う。
- (委 員) 1 ページの「以下のように」は「下の表のように」とするか、「以下」の行の下に表を入れるべき。
- (委 員) KPI の項目は今後も取り組む中で変わっていくのか。それとも戦術の中で立てられるものなのか。
- (事務局) 目標の値については基本的には 5 年間変わらないという認識である。ただし、PDCA を回す中で、達成が難しいもしくはもっと高いところを目指せるということであれば戦略そのものを含めて数値を変えることもあるかもしれない。
- (委 員) 審議会の中である程度指標を持って進むということか。気になることがあって、21 ページの横田高校のところ、●●中学生の横田高校への進学率がなぜ低いかというと、部活動のこともあるが、学力が低い子が行く高校という考えが意見としてある。文武両道の学生がいることが学校の魅力の 1 つであるとは思いますが、奥出雲町の子どもの学力の低下は著しく、島根県も全国で学力が低い、その中でもさらに低くなっている。将来、まちづくりを担う人材として、学力も大きな指標になっていく。今から新たに加えるのは難しいとは思いますが、生きていく上で最低限の基礎学力は必要。きちんと目を向けるべき。

(会 長) KPI で記載内容のすべてを評価するものではない。数値では評価できないものや、町のウィークポイントで、現段階では載せるべきでないというものもある。厳選された項目である。その上で、重要な意見として子どもの学力の件は人口減に影響してくるのはないか。委員のみなさんからこの件に関連してご意見があればお願いしたい。

(委 員) 横田高校には学力が高いものから低いものまで多様な生徒がいる。国公立を目指す生徒、専門学校や就職を目指す生徒に対応できるようにカリキュラムを工夫している。確かに全国の中でも島根県は学力が低く、その中でも町内は危機的。横田高校だけではなく、小中学校も学力向上に向けて取り組んでおられると思う。ただ、評価指標の中に入れるかどうかは別。小・中・高全体で生徒が減っていく。小・中・高統廃合問題もあるが、少ない人数での学校教育がこのまま進められてどうなるのかが課題だと思う。

(事務局) 定例議会でも同じ様な質問があり、危機感をもっている。小学校の頃から基礎学力をつけていかなければならないという声は実際よく耳にする。非常に大事な視点である。ストレートには書いてないが、教育委員会もそういう意思はもっている。KPI の項目として入れるかどうかをご議論いただきたい。

(会 長) KPI にいれるか否かという問題以前に、奥出雲で一定の教育が受けられるということは皆さん重要だと認識されていると思う。高校だけの問題ではないので、21 ページの取組みの方向性にでも含まれると良いのではないかと思う。

(委 員) 重要な問題だと思う。人口減少の原因にはなると思うが、そういうことを言い出すと課題は他にも沢山あると思う。キャリア教育は小中高だけでなく、専修学校も町外から学生がたくさん来て頑張っている。そういうことも含めて、地域で一体となった教育を今後どうするかということを議論する必要があると思っている。ただ、今の段階で KPI として入れるべきかどうかまでは・・・。

(委 員) 学力を重要なものとして定義づける場合、学力を魅力としてとらえ、KPI に設定するなら良いと思うが、例えば、学力はいらない、ホッケーだけでいきます、というのであれば、学力は切り捨ててしまっても良いと思う。しかし、ここで学力の話が多数出るといことは、学力に特化した政策をしなければいけないと皆さん思っておられるのだと思う。横田高校が学力かホッケーかどちらかに絞るということは考えておられないのか。

(委 員) それは横田高校としてはありえない。学力差がある生徒がいて、かつ、多様な進路志望をもっている生徒がいる中で、何か 1 つに特化することはできない。普通高校であるが総合高校だということを宣伝している。就職から難関国公立大学まで一人一人面倒を見る、そういう事を魅力化事業の中に入れていく。

(委員) 横田高校というミクロな視点では難しいかもしれないが、町全体として若者を増やしたいのであれば、何かに特化しても良いのではないかな。

(会長) ビジョンを考える上では重要な意見だと思うが、ここまで積み上げてきた中で、ここへきて何かに特化するという勇気はないのではないかな。当初の指摘では、学力は学力で本来持つべき力すら基準より低いのではないかなという事だった。KPIに入れるかどうかは難しいかもしれない。大事な指摘として持ち帰らせてもらえないかな。

(委員) KPIに入れてくれ、という話ではない。目標数値化すると教育の面で質の部分が必要になる。戦略の流れだとふるさと教育が足りないから奥出雲に残る就職者が少ないとも取れる。しかし、実態は地元に残りたい生徒が多く、受入企業が少ないため町外に流出する。町内の就職試験は面談で終わるところが多いが、町外は他高校との競争となって、就職試験で落ちてしまう生徒が続出している。町内企業就職 15 人という目標は、生徒の気持ちの面ではすぐに達成できるが、町内の受け入れ企業が増えて、かつ、育成できるのかが課題ではないかな。

(会長) 重要な意見として持ち帰りたい。

(委員) 30 ページ 3 行目、「現存」を「操業」にしてはどうか。他の自治体でも、施設が現存している。

(委員) 31 ページ図 8 も元号で表現すべきではないかな。

(事務局) そのように訂正させていただきたい。

(会長) 26 ページ UI ターンの促進で社会動態の減少幅の抑制は単年度の目標設定となっているが、自然動態ほどではないにしても単年度ではブレがあるのではないかな。逆に言えば単年度だとその年頑張れば良いという見方もできるのかもしれないが、安定しているのでいいのかな。

(事務局) 人口ビジョン 17 ページ図 21 の社会増減をご覧いただきたい。折れ線グラフが社会増減を示しているが、2014 年で 101 人減となっており、だいたい 100 人減で推移している。戦略を進める事により、社会増減をなるべく 0 に近づけていく。

(会長) 絶対的に社会減を極力少なくしていくという考え方から KPI に設定したということ
で理解した。

続いて 40～41 ページを含めて議論させていただきたい。具体的にどう戦略を推進して

いくつかのシナリオと進行管理を示されている。分量的にも書きぶりの的にも協議していきたい。併せて、戦略には盛りこまなくてもこういう考え方・観点が必要だという意見があれば積極的にご発言いただきたい。

(委 員) 意識改革も大事だが、組織づくりが先ではなく、問題点の現状の分析とそれに対する課題のようなものを並行して追及していくことにより、どういう組織づくりが求められるかを検討したほうがやりやすいのではないだろうか。

(会 長) そもそも総合戦略が国の流れやスケジュールなどあり、まず作る事が命題になっている。ただ、協議していく中で課題も出るので、現状の総括をして今後のPDCAに繋げていこうというご意見である。

(事務局) H28年度の予算を作る中でも、現状課題をさらに分析をしながらもっと具体的な対応策を考えていくということになると思う。

(事務局) ステップについては段階の話で、当然役場だけでなく、さまざまな関係機関や住民の皆様とも議論していくことが必要であるということをご概念図としてお示ししている。

(会 長) 計画を作る前に現状を総合的に総括して、何が問題で何がプラスの事なのかを整理するべきではないかというご意見だと私は理解した。総合戦略の会議の範囲でいいので、見通しがあればお示しいただくと良いと思ってお聞きした。総合計画自体は見直すのか？

(事務局) H23年3月に策定した総合計画は5年目を迎えて、総合戦略が出る前は今年度、中間評価をして場合によっては見直しを考えていたが、今回、総合戦略を策定したため、総合計画については今年度後半、もしくは来年度のところで中間評価をしながら場合によっては変更、あるいは見直しをしていく予定。

(会 長) きちんと現状評価していただけたらと思う。

(委 員) 評価と見直しという話が出たが、評価の結果はきちんと議会上げられるのか。今までの総合計画の良くなかったものをきちんと評価した上で総合戦略を考えるというプロセスになっているのか。

(事務局) 基本的な考え方として、総合戦略と総合計画は別物だと考えている。総合計画は人口減少問題だけでなく、道路整備問題等、町政全般に関わること。ただ、総合計画を見直していく中で、人口減少問題に関わることもあるので、場合によっては総合戦略の変更も手順としては起こりうる。総合計画の見直しについては、形は決めていないが議会と

の関わりをしていかなければならないと考えている。何らかの資料を示しながら見直す。

(委員) ステップ1は大事だと思うが、40ページの図は一見すると2~3年後から始まるようなものに見える。

(会長) 本当は本年度からスタートということになっている。

(事務局) 40ページの表現はもう少し工夫したいと考えている。具体的な事業の取り組みはここに書いてないが、子育てのワンストップ窓口についても補正予算を計上したり、今年度の当初予算で計上した事業もあり、本年度から取り組めるものには取り組んでいく。

(委員) 40ページ個々の課題に対して、どれからやるか、優先順位をつけると思うが、専修学校として進言できる場があるか？予算に組み込んでいただきたいものについて、アピールできるか。

(事務局) まずは専修学校の担当である総務課に提案いただきたい。それが企画財政課に上がってくればその中で予算をつけるかどうか検討したい。現時点では、戦略にPDCAの中で、評価・検証の場を設けたいと考えている。

(委員) 今年、卒業する女子学生のうち3名は雇用があれば町内に残ってもよいと言っている。しかし、雇用先、求人がないのが現状。以前の話にあった、いかに若い女性を定住させるかという問題に直結する。若い女性を定住させるためには雇用先が必要であるという想いから前述したような取組みを進めているところである。

(事務局) 雇用のマッチングについて町としても一緒になってやっていきたいと思う。また意見交換させていただきたい。

(委員) KPIの評価について、外部評価も入るのか。

(事務局) KPI以外の事も含めて全体として評価をする。その結果を基に、住民や有識者と意見交換や提案をいただければと思っている。

(委員) 学校は自己評価、町内からの評価、他府県からの評価を行っている。この3つが大事であると思う。

(委員) チェックが一番大事だと思う。ここをしっかりとやらないとうまく進んでいかないとと思う。

(委員) 評価がされないままに時間が過ぎるのは意味がないように思う。外部の検証に重きを置いてほしい。

(会長) 41 ページに対するご意見が多いが、できればもう少し踏み込んで書くようご検討いただければ思う。

意見がなければ最終修正していくと決めさせていただきたい。

(委員) 基本理念について、議員からキャッチコピーが必要という意見があった。私も分かりづらいつらいつらと思った。この理念がキャッチでないのではないか。理念と言え、企業理念などはだいたい箇条書きで誰が見ても誤解しないようなものである。もっとシンプルに、3つ、4つにしまえばよいのではないか。基本目標を基本理念にしても良いのではないか。

(事務局) 委員がおっしゃる通り、確かに基本目標がキャッチコピーのようなものではある。短いフレーズのキャッチコピーは必要ではあると思うが、総合戦略の枠組みではなく、町全体で設ける次元のものだと考えている。基本理念をこれから変更するという事は考えていない。

(会長) キャッチコピーについて否定するものではないが、総合戦略の本文そのものを書くのは現時点では難しい。

(委員) 総合戦略を持って国に予算をつけてもらう必要がある。つまりプレゼンだと思いが、これで心が掴めるのか疑問である。他の地域と戦えるのか。

基本理念は2ページのどの部分を指すのか。

(事務局) 基本理念は上の文言で、下の文章は基本理念の説明文にあたる。

(会長) 逆に言うと、基本理念が各施策に染み入ってないという印象がある。どうしても網羅的にならざるを得ず、仕方ないかもしれないが、本文には書けないが検討の余地がある。

議事として、総合戦略(案)について、この方向でいくということでご了承をいただけるか。

(委員一同) 良い。

(3) 答申について

(会長) 10月8日に答申する。一任していただけるだろうか。

(委員一同) 良い。

(4) その他

(委員) また色々ご提案させていただくので、是非、聞く耳を持っていただきたい。

(副会長) 総合戦略が実りあるものとなるよう。

(会長) 国からの流れがあるとはいえ、沢山の委員の方に奥出雲町総合戦略及び総合計画をご議論されたことは大変大きな成果である。その中で特に奥出雲町は人口に特徴があることが分かった。奥出雲町の現在の勢いに関して、高齢化が他町に比べて高いということは分かっていた。その中で多数の学校で子どもが減っており、統合を視野に入れなければならない現状にある。しかし、私自身は統合には反対だ。その他、男性の婚姻率が低い。女性の婚姻率が高いにも関わらず、若い女性の町外流出が多い。いろいろ検討はされたが原因はよくわからない。問題点を整理する以外にも、潜在的な原因があるのではないかと思った。今後研究していけると良い。「本物の幸せ」と何かということをもう少し深めたかった。他町と比べて奥出雲の本物の幸せはこれだ！と言えるともっと良かった。個々の施策に対しては、大切なものの整理ができた。特に本日の議論の中で教育、学力も大切であると意見もあった。ある町では保護者は部活をさせたいから統合させてくれ、という人がいた。学力の話は出なかった。複雑な思いで聞いていた。過疎の問題は、人口の流出・高齢化の問題だけではない。もっと怖いのは知の流出。知の再生産をして、世界に誇るものが沢山ある奥出雲町から発信してほしい。

(町長) 事務局から提案させていただいた、人口ビジョン、並びに総合戦略(案)につきまして、短期間だったが、審議をいただいた。今回の総合戦略策定にあたり、各方面の方の審議、役場等の町内会議、専門部会、若手職員によるプロジェクトチームを立ち上げ、議会と共に推進しながら進めてきた。今後は、審議会での方針を受け、パブリックコメントを実施した上で、10月末に奥出雲町議員会へ報告を予定している。この総合戦略を基にこれまで行ってきた定住施策、子育て支援を中心に、安心できるまちづくり、結婚・出産・子育て、又将来を担う人づくり、本町を活かした仕事づくり等、人口減少に歯止めをかけて、本町の恵まれた歴史・文化・自然環境・たたらに代表される歴史に満ち溢れた奥出雲町に更に磨きをかけて、町民の皆さんに「本物の幸せ」を実感できるようなまちづくりを進めていきたい。取組みの実行に関しまして、県の財政支援を視野に入れ、本町の効果的な事業を取捨、選択しながら来年度の予算編成、今後の補正予算で対応していきたい。更に既存事業の評価も行いながら、総合戦略の推進、PDCAサイクルに基づいた施策効果を検証していきたい。委員の方には、今後ともご指導・ご鞭撻をお願いします。本当にありがとうございました。

以上